

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>2021年度に最も力を注いだのは、前年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果および事業の概要は、以下の通りである。</p> <p>(1) 初等中等教育での教育研究</p> <p>附属高のTSUBASAプロジェクト事業の一環として、市内小学生を対象とした「アウトプット教室：経附生・経大生といっしょに発信力を鍛えよう」という事業を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催中止。</p> <p>(2) 高等教育での教育研究：経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長（通年）</p> <p>経済学部初年次必修科目「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」の授業内容・授業方法の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。さらに、以下の3点の編集・作成も行った。</p> <p>『「日本語リテラシーⅡ」指導要領2021年度版』（全18頁の作成を担当）</p> <p>『「日本語リテラシーⅠ」指導要領2022年度版』（1～69頁の作成を担当）</p> <p>『「日本語リテラシーⅠ」教材集2022年度版』（1～17、42～70頁の作成を担当）</p> <p>また、雑誌『文部科学教育通信』にて、同科目に関連する「高崎経済大学における日本語リテラシー教育の取り組み」という連載を、以下の通り、開始した。</p> <p>第1回「初等・中等教育やグローバル教育との関連」（No.526、16-17頁）</p> <p>第2回「三部構成を主軸とした初年次教育科目のコンテンツ」（No.527、16-17頁）</p> <p>第3回「少人数制必修科目のガバナンス」（No.528、16-17頁）</p> <p>(3) 古代ギリシアにおける市民教育に関わる研究</p> <p>弁論術の創始者であるコラクスが発見した弁論の三部構成に関して、また弁論教育における代表的人物であるイソクラテスが実践した作文教育に関して、古典ギリシア語原典史料の蒐集・整理作業に着手した。</p>	
2 その他の事項	
<p>(1) 経済学会誌『高崎経済大学論集』公募論文の査読1編（4月中下旬）</p>	
3 次年度以降の計画・抱負	
<p>前年度と同一テーマが最重要課題となるが、初等中等教育での教育研究となる「アウトプット教室」事業を、いまだコロナ禍が続く状況下で、いかに実施させるかが大きな課題である。</p> <p>高等教育での教育研究では、日本語部会長を継続して、日本語リテラシー科目の強化充実に努める。</p> <p>さらに、古代ギリシア研究の面でも、弁論術教育に関わる史料の蒐集・整理も継続しながら、その本格的な読解にも取り組みたい。</p>	